

和歌山大学クリエ映像制作プロジェクト

ドキュメント制作ミッション

作成者：ミッションリーダー 野口直哉

1. 目標

- ・ 作品制作の完成
- ・ NHK 全国大学放送コンテストの映像番組部門での入賞

2. 目的

ドキュメントとは、実際にあった出来事などを中心として、虚構を加えることなく構成された映画・放送番組・文学作品のことである。クリエ映像制作プロジェクトでは、初代の先輩方が高校生のロケットの打ち上げに密着し、ドキュメント作品を制作し NHK 全国大学放送コンテストにおいて優勝という素晴らしい結果を残している。そこから、現在に至るまでクリエ映像制作ミッションではドキュメント作品を作り NHK 全国大学放送コンテストに提出している。しかし、どの作品にも共通することだが映像作品のターゲットは誰であるか、ターゲットに作品制作者側が意図するメッセージを伝えるということは非常に難しいことである。自分たちが作りたい作品を作るということはこちら側としては楽しいことであるが、それが求められているものと一致するとは限らない。また、NHK 全国大学放送コンテストに入賞したのは初代の一度だけである。

ドキュメント制作を通して、NHK 全国大学放送コンテストでは何を求められているかというニーズを読み取り、またそのニーズに合った作品を制作する必要がある。ドキュメント制作ミッションでは、作品のターゲットを明確にし、ニーズに合った作品を作ることを目的としている。また、ドキュメント作品は作品を見た人の心に残るものでなければならない。作成者側の意図がどのようにすれば伝わるのかを考えて作品を作る必要がある。

3. 主な活動内容

ドキュメント制作ミッションでは、カメラや広域マイクを利用して撮影と録音を行う。そして、それらを編集することによってドキュメント映像作品を作り上げる。また、新入生たちに映像作品の制作に関わってもらうことによりドキュメントを作るにあたって必要な作品の構成などを上級生と共に考え、またカメラや編集ソフトの操作を学んでもらう。9月上旬締め切りの NHK 全国大学放送コンテスト映像番組部門に提出し、入賞を目指す。

4. 具体的な活動内容

機材講習会

5, 6月に基本的な機材の操作方法を学ぶために行う。クリエ映像制作プロジェクトのCM制作ミッション・映画制作ミッションの機材講習を兼ねて行う。昨年と同様、映像制作に関わったことがある1年生がほとんどいないため、カメラや広域マイクの基本操作、映像編集方法を2年生が中心となり1年生に教える。また、それが2年生にとっても再確認の機会となっている。

ミーティング

4月～7月にかけて週に1回程度ミーティングを行った。ミーティング内容としては、作品の構成案の話し合い、進捗状況の確認・報告である。また、ミーティング前に何について話し合うかを事前に伝えておきミーティングの話し合いが進むようにしていた。しかし、話し合いが進まない時もあった。

テーマ・取材先決め

3月～5月にかけてテーマを決め、取材先にアポイントをとった。昨年のドキュメント制作をしていた先輩方からのアドバイスでこれらを決める事を早めにした。今年度は、4名の農家の方に撮影協力していただいた。

取材交渉

5月に企画書の作成をし、取材先の農家さんに集まってもらいドキュメントについてのプレゼンテーションを行った。

構成決め

4月～6月に構成を考えた。6分以内のドキュメント作品にする必要があり、限られた時間で起承転結を明確にする意識を持ち構成を考えなければならない。この構成により、必要な取材・撮影が決まってくる。ミーティングの回数を重ねていくうちに、構成が少し変化することもあった。

ロケハン

5月にロケハンを行い撮影予定範囲の確認をした。今年のドキュメント撮影では、特別に許可を取る必要はなかった。取材先の農家さんに撮影する場所の推薦をしていただき、その場所の確認・撮影を行った。

6月に各農家さんの農作業風景やインタビューの撮影を行った。1日で各農家さん全員を回することは時間的に少し厳しいところもあった。しかし、大学生活では経験できないような農業の大変な様子を見るなど良い経験になったのではないかと思う。

編集

6月に撮影を行った映像・音声の編集を行った。予定では、早めに編集を終え手直しをするつもりであった。しかし、実際には編集ができたのは8月下旬であり作品提出の9月上旬まで編集していた。早めの行動を心がけていたが授業や課題に時間を割いていたため予定通りにすることができなかった。また、編集に慣れていなかったため、順調にできなかったことも原因である。こういった面も考慮し予定を計画する必要がある。

5、結果・成果

第33回NHK全国大学放送コンテストに出品した結果、予選を通過することはできなかった。何故予選に通過することができなかったのか、その理由は6の今後の課題・展望で述べるとする。

ドキュメント制作を行うことにより、外部の方へ取材依頼するときに必要な手順を学ぶことができた。大学生活において、このような経験ができるのは貴重な事である。ドキュメント制作により、その貴重な経験ができたと考えられる。

6、今後の課題・展望

今後の課題と展望を述べるにあたり、こんかいの入賞作品について述べる。まず、我々が番組を作るとき、誰に向けての番組であるかという事が重要になってくるだろう。誰に向けて作るかを正確に決めることでテーマが自然と明確になると考える。

ドキュメント制作は外部の方の協力が欠かせないものであり、特に今回は取材やインタビューを複数の方に行った。協力していただいた方は大学生活を送る中では関わることがないだろうと思う。そのためとても貴重な経験になっただろう。撮影や編集過程は新入生だけでなく上級生も技術を向上させることができた。しかし作品はターゲットの不明確さ、大学生ならではという視点が足りなかったように思われる。そのため入賞に届かなかったのだろう。この2点を改善すべく来年度はドキュメンタリー作品を多く鑑賞し、どうすれば人々の心に響くような作品を作ることができるかを研究する必要があるだろう。そして、来年度こそは入賞することを目指したいと考える。目標設定にスケジュール通りに作品を完成させることがあるが、それは当然とし、入賞に向けて上記に述べたことを実践し努力していきたい。

7、感想

ドキュメント作品を作ることは難しいとミッションリーダーの引継ぎの時に聞いていたが、想像以上に難しかった。大学生から動画制作を始めましたが、初めての事ばかりで今回のドキュメント制作のミッションリーダーをさせていただきました。しかし、至らなぬところばかりで申し訳なかったと思います。学業と両立しながらもさらにドキュメント制作の

勉強をすべきだったと反省しています。私そしてチームとしての反省が来年度に行かせるようにしてほしい。

最後のドキュメント制作に協力して下さった先輩、取材やインタビューに出演して下さった方々に感謝し成果報告書を終わりたいと思います。